

特殊詐欺の認知状況(令和2年中)

～前年に比べ、認知件数は微増、被害総額は大幅に減少～

1 県内の特殊詐欺の認知状況(令和2年中)

- 被害認知件数は**38件**(前年比+2件)
- 被害額は**約1億1,226万円**(前年比-約9,358万円)

2 令和2年12月の認知状況

- 被害認知件数は7件(前年同月比+3件)
- 被害額は約770万円(前年同月比+約22万円)
- 手口は
 - ・オレオレ詐欺～1件
 - ・架空料金請求詐欺～5件
 - ・融資保証金詐欺～1件



3 県内の特殊詐欺の傾向(令和2年中)

令和2年中の認知件数は38件であり、前年と比べて2件増加しました。また、被害額は大幅に減少したものの、依然として1億円を超えており、予断を許さない状況です。

手口別では、架空料金請求詐欺が38件中22件と最も多く、全体の約6割を占め、また、年代別では20代から80代までの幅広い世代が被害に遭いました。

そのほか、令和元年中は発生がなかった還付金詐欺が発生したり、パソコン上にウイルス感染の警告メッセージが表示され、ウイルス感染対策名目で電子マネーを購入させて利用権をだまし取るサポート詐欺が続発するなど、様々な手口の被害を認知しました。



本年も随時、もってこいネットワーク通信で最近の手口などをお知らせしますので、電話やメールでお金の話が出たら詐欺を疑い、家族や警察に相談してください。

4 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和2年12月末(人)		
	男性	女性	計
0～19	-	-	-
20～29	2	-	2
30～39	-	-	-
40～49	3	4	7
50～59	4	1	5
60～64	4	2	6
65～69	2	2	4
70～79	4	2	6
80～89	3	5	8
90～	-	-	-
合計	22	16	38
うち65歳以上の高齢者	9	9	18

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和2年12月末件数
振込型 (犯人が指定する口座に振り込ませる)	16
現金手交型 (犯人が直接現金を受け取る)	4
現金送付型 (郵便や宅配便などで現金を送らせる)	5
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	10
キャッシュカード手交型	2
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	1
合計	38